

沓間 宏

1981-2016 変遷の軌跡
退任記念展

2016. 9.7-19 日曜休

「1981-2016 変遷の軌跡」

画家には生涯を通じて同じ主題(テーマ)を描き続けるタイプもあれば、制作とともに自己を掘り下げながら新たな主題に遭遇して、あえて主題(テーマ)を変化させていくタイプもいます。

1981年公に作品を発表して以来、後者のタイプと思しき一人の画家として変化し続けてきた35年間で、代表作品を辿りながら主題の変遷とその軌跡を一望します。

会場は4期のシリーズに分けて展示構成し、作品を読み解く手がかりとなるテキスト資料を掲示します。

■9月10日(土)・9月17日(土) 14:00～ギャラリートーク(作品と技法解説)を行います。



展示構成

- 第1期: 1981年～1982年
故郷山梨の富士のすそ野に広がる「樹海」をイメージした、練り込みテンペラでの制作。
- 第2期: 1983年～1990年
東洋の古画や日本の屏風絵・襖絵の様式美に触発され、初期は練り込みテンペラで、後にアクリルを用いて意匠的に描いた「沙羅の夢」シリーズ。
- 第3期: 1991年～1999年
沖縄、タイ、インドネシア、ボルネオなど、アジア各地の熱帯樹林を取材して、テンペラと油彩の混合技法により描いた、アジア独自の密林風景。
- 第4期: 2000年～現在まで
「よき知らせ」を代表とする、様々なキーワードからイメージして、ドンゴロスの上から描いた油彩作品。

上

「誘惑の森」 1981年

麻布、墨・練り込みテンペラ 116.7×116.7 cm

中

「沙羅の夢」 1989年

麻布、アクリル 194.0×388.0 cm

下左

「屹立の景」 1998年

麻布、テンペラ・混合技法 194.0×162.2 cm

下右

「よき知らせ (星降る夜)」 2012年

ドンゴロス、油彩 194.0×162.2 cm

略歴

1954年 生まれ。
1982年 東京芸術大学大学院美術研究科修了。
テンペラ、油彩の古典技法について研究し春陽展、個展等で作品を発表。

1990年 トキワ松学園女子短期大学絵画コース
(校名変更・横浜美術短期大学)講師。

受賞 春陽会賞、山梨県立美術館賞
中川一政賞

収蔵 山梨県立美術館、チェンマイ国立大学
美術館、女子美術大学美術館、青山学
院大学、他

現在 横浜美術大学教授、春陽会会員

青葉台駅から本学まで



●青葉台駅バスターミナル4番のりば
東急バス「日体大行」(約10分)
→「横浜美術大学」下車

●小田急線柿生駅から東急バス「長津田行」、
小田急バス「こどもの国行・町田行」を
利用の場合は、バス時刻をご確認ください。
(約20分)

学校法人トキワ松学園

横浜美術大学

〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1204

TEL 045-962-2221 (代)

www.yokohama-art.ac.jp